



# 建築人

6

2013





大阪ホンマもん

今年の四月下旬に福島県三春町を訪れる機会があった。大高正人の故郷であり、晩年に向かつて精力的に町づくりにかかわり、自らいくつもの建築を手がけた場所でもある。日本三大桜の一本と言われ、国の天然記念物に指定された樹齢千年の滝桜でも有名だ。私事ながら、二〇一一年三月十一日の東日本大震災以来、はじめて福島県に足を踏み入れることになる。小雨の降りしき中、例年になく暖かい春を迎えたためか、すでに多くが葉桜となっていたものの、町のあちこちに薄桃色の桜が散りばめられた山里の静かな風景が印象的だった。

見学先としてまず向かったのは、大高が最初に手がけた三春町民体育館（一九七八年）である。以前に紹介した千葉県立美術館（一九七四年）を引き継いだような、大きな金属屋根と短辺の角を切り落とした妻側の造形が特徴的な力強い外観をしている。中に入ると、近くの専門学校生たちがバスケットボールに汗を流していた。明るい自然光が天井から降り注ぐ中、彼らの動きが神々しく見える。だが、管理をされている方に話を聞くと、震災の被害をまったく受けなかったため、避難所として、三か月間、五〇〇人ほどが暮らしていたという。続いて、道順を聞いて訪ねたのが、四年後に竣工した三春町歴史民俗資料館である。敷地は町の中心部を見下ろす小高い丘の上であり、下の国道からは見上げるほどの高さに位置する。建物は、起伏の多い斜面地に馴染むように、高低差を利用して分散配置されている。隣には平坦な造成地もあったが、あえてこの狭い斜面地が選ばれた。その理由について、設計担当者は「屋根を屋根として、斜面は斜面のままに生かしながら、地形と建築の関係を追求する必

要があると考えたため」であり、「町域のほとんどが山の中にある三春町のような町にとつて、樹林や地形を大切にし、景観を保ちながら建設する方法を探ることが、今後の開発の必須条件になる」と考えたからだ」と述べた上で、次のように記していた。

「今日、私たちの手には、ブルドーザーやパワーショベルをはじめさまざまな土木機械がある。これらを使えば、自然の地形を変更することなど、ごくたやすいことだ

こうさりげなく記されているけれども、ここには、近代建築との長い取り組みからたどり着いた大高とスタッフたちの積年の思いが表明されている。というのも、彼らには、その十数年前、独立直後の一九六〇年代の半ばに多摩ニュータウンの開発計画の研究を委嘱された際、自然地形を生かして作り上げた二年間の労作の計画案を反故にされた苦く手痛い経験があったからだ。そこには、日本の近代化の歪みが露呈していた。大高も、この資料館の竣工後に行わ

れた対談の中で、次のように語っている。「近代建築は二〇〜三〇年位の寿命のサイクルで手軽につくられ、それが蓄積されたために、日本中のどこもかしこも雑然とした手軽な風景になってしまったといえます。たとえば、われわれに感動を与える昔の民家は現代と比べてはるかに貧乏なときに、金も技術もとにかくその地域にあらん限りの力を集めて、えらい苦心をしてつくったわけです。われわれもそのような風

## 記憶の建築 松隈 洋

三春町歴史民俗資料館 1982年  
桜の山里に建つ風土の建築



山側の西から見る建物外観



展示室内部

し、そのほうが経済的である場合が多いだろう。しかし、私たちはこのような方法には反対する立場をとる。一度不用意に壊された地形は、元には戻らないからである。今日まで継承されてきた地域の伝統や文化といったものは、やはり、それぞれの地域の地形や植生、風土に育まれたものであるはずであって、私たちはその大地に対して敬虔であるべきだと思う。」（倉本宏「建築文化」一九七八年七月号）

景になり得る建築をつくっていかねばなりませんね。」（対談・地域の風景となる建築をつくる―渡辺定夫・大高正人「新建築」一九八三年七月号）

こうして、この建物では、先人たちが遺した民家と風土に敬意を払いながら、それと連続するような「風景になり得る建築」が目指されていたのである。だからなのだろう。いぶし銀色をしたアルミ製の屋根は民家の瓦屋根を、黄土色の炝器質タイルが張られた外壁は土蔵の土壁を彷彿とさせる。一方、内部の天井と壁は難燃性の木質系の合板で仕上げられ、天窓から柔らかな自然光が降り注ぐ。その下に、農家の囲炉裏端が現寸で復元され、実際に使われていた暮らしの道具類や郷土玩具などの民俗資料と、明治時代の自由民権運動の発祥の地のひとつとして知られる三春ゆかりの河野広中らの歴史資料などが展示されている。資料館を出て山側を奥へ回ると、この建築に寄り添うように桜の花が咲いていた。そこに、大高が求め続けた風景の到達点があるようにも思えた。しかし、丘のふもとに来館者用の駐車場には、そうした大高の思いやこの穏やかな風景、当日わずかに接した三春の人々の優しさとは異質な測定器が置かれ、放射線の空間線量の値を刻々と電光表示していたのである。震災の前年に亡くなった大高の見ることのなかったこの現実はいまにも過酷であり、未だに終りが見えない。三春を千年間見守ってきた滝桜と共に、大高が故郷に残した建築群は、この国の近代とは何だったのかを、改めて現代の私たちに問いかけている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

ワークショップや研究会など、さまざまな人々と関わりあいながら設計を進めていく機会が増えています。今回ご紹介するプロジェクトでは、環境省のモデル事業として、地域と学校・研究者（立命館大学・近本智行教授、滋賀県立大学・松岡拓公雄教授）が一体となった学習会や設計ワークショップを積み重ねられました。そのような「繋がる」活動についての思いを、設計を担当された柱健太郎さんにお書きいただきました。

## 校舎の「エコ改修」をきっかけとした環境教育の実践

～環境省「学校エコ改修と環境教育事業」モデル校 京都市立朱雀第四小学校の取り組み～

### 柱 健太郎

1978年大阪生まれ 2004年大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻建築工学コース修了  
2004年株式会社東畑建築事務所入社 現在 名古屋事務所 設計部  
最近、学校づくりに関するワークショップの企画運営に携わることが多くなった。計画案についてから、子どもたちのものづくり、学校と地域をつなぐソフトづくりのお手伝い、更には・・・地域の方と一緒に流しそめん大会までも。  
「建築：Architecture」とは、建物のみではなく、それをつくる過程を含めて指す言葉であり、あながち間違っていない、はず。

「この夏はエアコンを一回も使わなかった」「風通しがよくなった」子どもたちや先生の実験が何よりの成果だ。朱雀第四小学校の校舎は、古くは昭和三〇年代から増築が繰り返され、露出配管に覆われた雑音はぎだらけの状態であった。それを単なる「お色直し」ではなく、環境に配慮した改修を行い、さらにはその校舎を活用した環境教育へとつなげる「学校エコ改修と環境教育事業」で蘇った。本稿では主にエコ改修校舎と環境教育との連携の視点からその取り組みを紹介する。

#### ■「学校エコ改修と環境教育事業」とは？

環境省のモデル事業（※）であり、校舎の改修（ハード）と環境教育・地域への普及（ソフト）を合わせて実践することで、地球環境保全への意識を高め、二酸化炭素排出量の削減につなげることを目指した取り組みである。平成十七年度から平成二十三年度までの事業中に全国で二〇校がモデル校として選ばれ、弊社はこのうち五校の設計を担当している。

#### ■ハードとソフトが一体となった特徴的な設計プロセス

本設計プロセスでは、改修後の運用を見据えたソフト面との連携が重要となる。そのためのポイントを三点挙げる。  
① 利用者の興味を高め、正しい運用・知識を身につける  
② これまでの教育や活動をベースとし、新たな動きを生み出す  
③ 学校と地域の連携を図り、活動の継続や地域への展開を目指す  
改修の効果を実感し、さらにその校舎

が原因として考えられ、通風ルートの詳細検討など、場所の特性に応じた細やかな配慮の重要性を感じた。

#### ○校舎を活用した環境教育

上図にある環境配慮項目が全般的に活用されている。最も活用されているのは新たに増築された「あかしやホール」であり、様々な環境配慮項目の「見える化」が環境教育のきっかけとなっている。高学年のエネルギー学習と連携し、「風の塔」をモデル化した重力換気の実験などへの展開も行われている。  
改修前に活発に行われていた自然環境学習を継承・発展する身近な学習フィールド「いのちの庭」も多用されており、この辺りは低学年でもカリキュラムを組みやすい。



上：断熱比較壁でその効果を体感  
下：風の塔をモデル化した風の流

#### ○地域と連携した新たな取り組み

環境教育への地域講師・ボランティアとの連携も行われており、水田での稲作では地域の方を講師で招き、生育、収穫、精米して最後はポン菓子として食べるまで、地域をまきこんだ教育活動の実践が行われている。

また、学校運営協議会「朱雀大路コミュニティ」を中心として、いのちの庭の維持管理やグリーンカーテンの生育などへの積極的な関わりが見られる。さらに、本学区は京都市の低炭素モデル地区「エ

自体を環境教育の生きた教材とすることで、その真価が発揮される。ただしそれには、利用者が無理なく継続できるしくみが必要である。本校における設計プロセスの具体的な特徴は次の通りである。

#### ○設計ワークショップで

エコ改修への興味・知識を高める  
教職員や地域代表者を対象に、エコ改修内容を検討するワークショップを開催した。既存校舎の課題を洗いだし、改修内容の検討や教室の配置換えなどによる学習環境の改善を図った。これまで駐車場としてしか利用されていなかった中庭は、自然と触れ合える身近な環境学習の場「いのちの庭」として整備することに  
なり、そのデザインゲームも行った。  
議論の視点としては、改修内容だけでなく、環境教育での活用や維持管理の視点も合わせて考えるテーマを設定し、ソフト面へつながるきっかけを与えた。

#### ○環境教育研究会でのカリキュラム検討

設計段階から環境教育についての研究会を開催し、エコ改修校舎を活用した環境教育内容を検討した。運営は事務局として別途コンサルティング会社に加わり、設計者は講師として、環境配慮項目の効果や環境教育への活用の可能性を示した。  
教職員は忙しく、新たな提案に興味を持つてもそれらを実施する余裕がないことが多い。これまでの授業内容をベースとし、そこから発展させることで負担を極力増やさずに新たな取り組みが実施できるカリキュラムづくりが行われた。

コ学区（※※）にも認定され、地域での意識も高まっている。

#### ○児童の学校での過ごし方

児童の学校生活に対しても、ほぼすべての教員が何らかの教育的効果を感じている。エコ改修が認識され、学校生活の一部として溶け込むことで、照明のこまめな消灯や、エネルギーを大切にしようとする意識の高まりなどが感じられるようになった。

#### ○正しい運用意識の継承と持続性

児童については、エネルギーの授業でエコ改修校舎のしくみを学び、その成果を次の学年に伝える「エコガイド」など、学年を超えた継承のカリキュラムが実施されている。

教職員に対しては年度初めに研修会が開催されたが、正しい運用の理解については人によりばらつきがあった。ただ、環境に対しての意識が高く、より正しい理解と運用を進める必要がある。

また、教職員や児童、行政担当者は入れ替わっていくが、地域住民や設計者は変わらず関わりを持つことができる。校内の継承のしくみとともに、周辺から運用をサポートする体制づくりが重要となる。

■環境教育に設計者が果たせたこと  
アンケート結果を総合的に判断すると、建築を環境教育につなげるには、「身近にあること」「効果や工夫・しくみが見えること」「実践できること」が重要と考えられる。設計では、倉庫は敢えて断熱改修をせずに、改修前後の比較ができるようにするなど、改修のメリットを活

○児童には体感的に分かりやすく  
児童にはクイズ形式で改修のしくみを伝えたり、「居ながら改修」を活かした現場見学会を定期的に開催し、かわりゆく校舎を身近に体感できるようにした。また、廃ガラス瓶をガラス玉に再生し、校舎の床に埋め込む施工ワークショップも開催し、児童がその並べ方を考えることで、児童もものづくりのプロセスに参加している。



上：設計ワークショップ  
下：ガラス玉施工ワークショップ

■改修後の学校生活・環境教育の様子  
改修後一年を振り返って教員にアンケートを実施した。その結果と合わせて朱四校の改修後の様子をまとめる。

#### ○改修による過ごしやすい改善

普通教室ではすべての回答で「過ごしやすいになった」とあり、その要因としては断熱化とともに通風が挙げられた。これは教室と廊下の中の建具を全開放できる三連引戸に改修した効果が大きい。通常時は大きく開放して通風を確保し、空調時には閉じることができる。ガラス張り北側採光も確保し、教室内の明るさ確保にも寄与している。

一方で、職員室は夏場に過ごしにくくなったとの回答もあった。これは断熱化により冷房効率は上がったものの、内部発生の熱などが逃げにくくなり、特に非冷房時に室温が上昇しやすくなったこと

かした提案を行った。「エネルギーという子どもが理解しにくいものを、校舎を使って比較・検証できる」という先生のコメントはまさに狙い通りと言えよう。こうしたものは使ってみて初めてわかる部分もあり、教員の考え方によっても変わってくるが、様々な活用を想定した「きっかけづくり」が重要であると考える。

また、設計段階からソフトとハードが連携したプロセスをとり、そこに利用者が加わり、共有することで、意識を高めることができた。さらには、朱四校には改修前からの環境教育への熱心な取り組み、地域との密接な関係のベースがあり、それらとの連携が上手く図れたことで、改修後のより充実した展開につながっている。

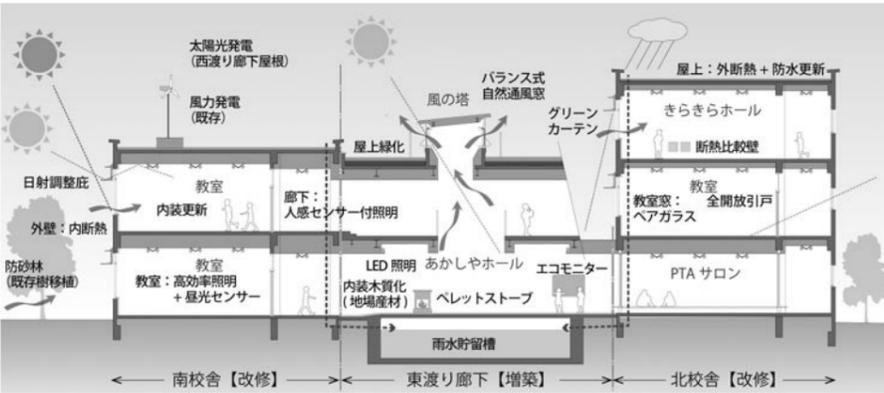
#### ■これからの設計者に求められる役割

最後に、最近「設計者として担う役割は何なのか、どこまで関わるべきなのか」という質問をよく受けるようになった。本事業においては、環境配慮項目に対する専門的な知識がハードにもソフトにも必要であることに始まると思う。教育に関しては当然教職員がプロであるが、設計者が環境教育に活用できる「きっかけ」を提示することで、その教育に幅が広がることになる。設計ワークショップの運営も設計者が行ったが、そこにも改修後の運用や維持管理、教育とつながる視点でのテーマ設定を行うことで、ハードとソフトの連携の糸口を見いだした。

設計者としては、建物のみにとどまらず、教育やまちづくりなどの幅広い知見を有し、建築を中心として様々な活動やしくみを結びつける「コーディネーター」としての能力がより求められると考える。



身近な環境学習フィールド「いのちの庭」。中央奥は増築された「あかしやホール」。様々な環境配慮項目が散りばめられている。



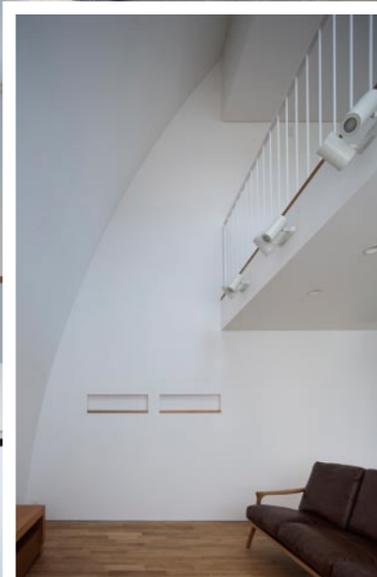
エコ改修内容の断面イメージ

※ 環境省「学校エコ改修と環境教育事業」ウェブページ <http://www.ecoflow.go.jp/>  
※※京都市「エコ学区」制度  
平成23年度から2年間、モデル学区を14学区選定し、地域でエコ活動を推進し、二酸化炭素削減とライフスタイル転換に繋げることを目的とし実施された制度。



この敷地は住宅地の南端に位置し、道路の反対側は豊かな自然が広がる緑地に接する南斜面。この斜面を生かし、道路からは2階建てであるが、南側は地階を含めて3層とし、どこからも自然と一体となった庭と眺望を楽しむことができるように計画。住宅地にありながら、一歩家に足を踏み入れれば別荘に来ているような感覚になる。敷地の正面のせんだんの木はシンボルツリーとして残した。休日には友人達を迎え、バーベキューや庭の散歩など、自然と触れ合いながら交流を深める場となっている。

所在地：大阪府羽曳野市  
用途：専用住宅  
竣工：2012.5  
構造規模：木造(一部RC造)  
地上2階  
地下1階  
敷地面積：511.29㎡  
建築面積：158.26㎡  
延床面積：353.35㎡  
写真：松村芳治



敷地は3区画の分譲地の中央で、既に両隣の2棟が完成した後の着工となりました。両隣とも前面道路側に空地をとり、建物が敷地奥に目一杯に建てられています。同じような建物配置では、お互いの開口部が近接して向かい合い、通風もプライバシーの確保も出来なくなります。そこで、建物を雁行させて、どちら側にも余白を確保した上で、窓の向きや大きさを調整し、この周密的な環境の中で自然な風の流れや適度なプライバシーを確保しました。東西に角度を変えて伸びていく内部は、奥行き感を強調し、場所によって変化する風景、窓から入る光の強弱を感じる空間となっています。

所在地：大阪府豊中市  
用途：専用住宅  
竣工：2013.4  
構造規模：木造 3階建  
敷地面積：106.82㎡  
建築面積：52.83㎡  
延床面積：153.66㎡  
写真：富田英次

# INFORMATION

# Sponsorship

## 建築士会からのお知らせ

### 会員の皆様へ

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。

つきましては、判定士の資格をお持ちでない会員の方は、下記の判定士養成講習会を受講され、判定士登録をしていただきますようお願いいたします。

### 被災建築物の応急危険度判定養成講習会

6/5・8/21・10/23・12/18・2/19
CPD4 単位

日程 ①6月5日(水) ②8月21日(水)
③10月23日(水) ④12月18日(水)
⑤2月19日(水)

時間 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講資格 大阪府内在住または在勤する建築士法第2条に定める一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。

受講料 無料
テキスト代 1,500円(税込み)
※応急危険度判定士登録時に必要な書類
①建築士免許証の写し(1枚)。
②顔写真(かた2枚。6ヶ月以内。無帽・無背景・正面上半身。縦4cm×横3cm)。
申込先・問合先
一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
Tel.06-6942-0190

### 平成25年度 建築士定期講習

7/23,9/3,11/30 CPD6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講された方が対象です。なお平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。

■日時・会場
7/23(火)大阪国際会議場
定員600名、会場コード5C-02
9/3(火)たかつガーデン
定員200名、会場コード5C-52
11/30(土)たかつガーデン
定員200名、会場コード5C-53
時間 7/23 9:30～17:30
9/3,11/30 9:40～17:30

■申込締切日
7/23(火)開催分:6/30(日)申込書必着
9/3(火)開催分:7/31(水)申込書必着
11/30(土)開催分:10/31(木)申込書必着
※大阪での申込受付は郵送のみです。必ず簡易書留郵便にてご送付ください。
※定員に達し次第、受付を終了します。

■受講料 12,900円(消費税込)
■申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

### 平成25年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会〔一般診断法講習会〕

6/26-7/26・9/25・10/30・11/27 CPD5単位

平成24年に診断マニュアルの大幅な改訂があり、最新の診断技術を取得していただく講習会です。
日程 ②6月26日(水) ③7月26日(金)
④9月25日(水) ⑤10月30日(水)
⑥11月27日(水)

時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円、会員外9,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

### 二級建築士/設計製図 受験対策講習会

実力養成コース 7/14～9/8
直前対策コース 8/25～9/8
模擬テストⅠ・Ⅱ 9/1,9/8

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。

■実力養成コース(全10回、模擬テスト2回含む)
日程 7月14日(日)、7月15日(祝)、7月21日(日)、7月28日(日)、8月4日(日)、8月11日(日)、8月18日(日)、8月25日(日)、9月1日(日)、9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員(準会員)110,000円、一般125,000円

■直前対策コース(全3回、模擬テスト2回含む)
日程 8月25日(日)、9月1日(日)、9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 25名(申込先着順)
受講料 建築士会会員(準会員)35,000円、一般40,000円

■模擬テストⅠ・Ⅱ
日程 Ⅰ:9月1日(日)、Ⅱ:9月8日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 【各回】25名(申込先着順)
受講料 【各回】建築士会会員(準会員)13,000円、一般15,000円

### 一級建築士/設計製図 受験対策講習会

課題解説+エスキースコース 8/24
模擬テストⅠ～Ⅱ 9/14,9/21,9/28

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。
■課題解説+エスキースコース
日程 8月24日(土)
時間 課題解説9:00～12:00、エスキース13:00～17:00

会場 大阪府建築健保会館
定員 40名(申込先着順)
受講料 建築士会会員10,000円、一般12,000円

■模擬テストⅠ～Ⅲ
日程 Ⅰ:9月14日(土)、Ⅱ:9月21日(土)、Ⅲ:9月28日(土)
時間 製図実習9:00～15:30、図面講評16:30～18:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 【各回】40名(申込先着順)
受講料 【各回】建築士会会員12,000円、一般15,000円
※複数コースを同時にお申込みの場合は割引があります。

### 建築士法にもとづく「建築技術講習会」

平成25年度 第2回 あなたが行う監理のために～パワーアップ監理力～
7/18 CPD3単位

今回の建築技術講習会は、監理についての特集です。設計事務所や施工会社としての監理(さらかん)の要点を解説します。
日時 7月18日(木) 13:25～16:25
会場 大阪府建築健保会館5階会議室
内容 ・タイミングを逃さない設計監理手法
・鉄筋コンクリート工事の工事監理
・鉄骨工事の工事監理項目における留意点の解説

定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円、一般5,000円(テキスト代含)

### 建築士の会 東大阪 東大阪市民美術センター見学会及び活動報告会

6/22 CPD3単位

「建築士の会 東大阪」では、東大阪市民美術センターの見学会を東大阪市のご協力により、開催いたします。
今回は、展示室の他、和室及び茶室を見学し、現在開催中の「奈良絵本・奈良絵巻の美」を鑑賞します。
見学後、「建築士の会 東大阪」の活動報告会懇親会、地域以外の方もご参加ください。
日時 6月22日(土) 集合 13:30～
内容 見学 13:45～
活動報告会 15:00～
懇親会 17:15～
集合 近鉄奈良線 東花園駅(北側改札口)
募集 50名(申込先着順)
参加費 1,000円(入館料、資料、飲物代含む)
懇親会参加費 別途4,000円

平成25年度 建築士の会 北摂 活動報告会+「北摂の民族学”講演会6/22 CPD2単位

「建築士の会 北摂」は、中牧弘允国立民族学博物館名誉教授をお招きして「北摂の民族学―“原住民”と“新住民”の暮らしと文化―」をテーマに歴史ある北摂住民の暮らしと文化を文化人類学の視点からご講演

いただきます。
日時 6月22日(土)
内容 活動報告会 13:30～14:00
講演会 受付14:00より
14:30～16:30
懇親会 (クリスタルホテル新千里にて)
17:30～19:30

会場 吹田市立市民公益活動センター会議室
吹田市津雲台1-2-1
千里ニュータウンプラザ6階
講師 中牧弘允(国立民族学博物館名誉教授・吹田市立博物館館長)
参加費 500円(会員外1,000円)
懇親会参加費 別途4,500円
定員 50名(申込先着順)

いただきます。
日時 6月22日(土)
内容 活動報告会 13:30～14:00
講演会 受付14:00より
14:30～16:30
懇親会 (クリスタルホテル新千里にて)
17:30～19:30
会場 吹田市立市民公益活動センター会議室
吹田市津雲台1-2-1
千里ニュータウンプラザ6階
講師 中牧弘允(国立民族学博物館名誉教授・吹田市立博物館館長)
参加費 500円(会員外1,000円)
懇親会参加費 別途4,500円
定員 50名(申込先着順)

第40回 賛助会員分科会セミナー
施主の内声から探る「求められる」建築家の姿と最新住宅・建築デザインソフトの応用例(3Dマイホームデザイナー-PRO8編)
7/11 CPD 2単位(予定)

住宅設計の際に施主の高い信頼を獲得するためには、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することが有効です。本セミナーでは、自由度の高い3Dパースソフトを用いて設計内容をビジュアルに表現できる住宅・建築デザインの応用例を、「3Dマイホームデザイナー-PRO8」を用いてご紹介します。
また、施主ユーザーへのアンケートから浮き彫りになった「施主から求められる建築家の建築・住宅デザインのプレゼン」について、メガソフト㈱から報告していただきます。
日時 7月11日(木) 講義18:00～19:30
質問コーナー&ミニ懇親会 19:30～20:30
セミナー概要

第一部 施主の声から知る「求められる」建築家とは?
第二部 「3Dマイホームデザイナー-PRO8」を用いたプレゼン資料作成
第三部 ユーザーによるソフト応用例紹介
講師:メガソフト㈱ 広報室
会場 ㈱内田洋行 会議室
大阪市中央区和泉町2-2-2
参加費(ドリンク・フード付) 会員1,500円 会員外2,000円
定員 100名(申込み先着順)

### 第56回建築士会全国大会

「しまね大会」10/19

全国の建築士会会員が集う全国大会を今年 は島根県で開催します。会員の皆様には、ぜひ本大会に参加いただき全国の会員と交流を深めてください。ご参加の会員に対して本会から参加費5,000円を補助いたします。

テーマ 神集う國しまね すべてを引き寄せ縁結ぶー「ものづくり」の原点を見つめるー

日程 10月19日(土)
会場 くにびきメッセ
※松江まちめぐり(10/19 8:30～12:30)
地域交流見学会(10/20)
申込 建築士5月号P25の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、本会事務局まで提出。
締切 7月19日(金)
大会の詳細は「建築士5月号」をご覧ください。

このINFORMATIONページの内容は本会ホームページのトップページにも同時掲載しています。本会ホームページからも予約することができます。
詳細は下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)
【大阪府建築士会ホームページ】
http://www.aba-osakafu.or.jp/

### 本会の催し参加申込方法

本会ホームページのWEB申込サイトからお申し込み下さい。FAX・郵送の場合は、事務局にお問い合わせ下さい。なお、建築士定期講習会は郵送のみの受付となっています。

問合・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

### 特定建設作業等に係る講習会

建設工事として行なわれる作業のうち、著しい騒音振動を発生する作業であって特定の重機を使用するものについては、法令で定められた事前の届出が義務付けられておりますが、住民からの苦情の訴えは依然としてあとを絶ちません。そこで、建設作業に係る苦情の未然防止及び法令で定められた届出の円滑化等を図るため、講習会を開催します。
なお、今般、大気汚染防止法(アスベスト関係)が改正される見通しであるため、この内容も含めた講習を予定しています。
主催 大阪市環境局
日時 6月27日(木) 14:30～16:30
会場 大阪市立中央区民センター
大阪市中央区久太郎町1-2-27
内容(予定)
(1)特定建設作業の届出等の留意点について
(2)大気汚染防止法(アスベストに係る届出等)の改正案について
(3)廃棄物の処理及び清掃に関する法律について

参加費 無料
参加方法 当日、会場へ直接お越しください。(事前申込み不要)

問合 大阪市環境局 環境管理部環境管理課
東部環境保全監視グループ
Tel.06-6267-9922

全国の「住宅メンテナンス診断士」が住まいのアフターメンテナンスのアドバイザーとして活躍中です。住まいの不具合の原因やアドバイスのポイントなど、幅広い情報を学ぶ講習会です。

主催 NPO法人 住宅長期保証支援センター
日時 6月19日(水) 9:25～18:00(予定)
(受付9:00～)
会場 大阪府社会福祉会館5階 ホール
大阪市中央区谷町7-4-15
定員 100名(先着順受付、定員になり次第締切)
参加費 一般28,350円(税込)
締切 6月12日(水)
問合 NPO法人住宅長期保証支援センター
Tel.06-6941-8336

http://www.hws.or.jp

### 「さびを防ぐ」技術講演会

溶融亜鉛めっきによる防錆・防食技術の普及

と推進の講習会です。
主催 (一社)日本溶融亜鉛鍍金協会
日本鋳業協会鉛亜鉛需要開発センター
日時 6月20日(木) 13:00～16:30(開場12:00)
会場 大阪市立天王寺区民センター(ホール)
大阪市天王寺区生玉寺町7-57
定員 300名
参加費 無料
申込締切 6月14日(金)
但し、定員なり次第締切
問合・申込 (一社)日本溶融亜鉛鍍金協会
Tel.03-5545-1875
http://www.aen-mekki.or.jp

1.民間住宅活用型住宅セーフティネット整備推進事業について(国土交通省)
2.大阪あんしん賃貸支援事業について(大阪府)
3.賃貸住宅の原状回復トラブルを防止するために(大阪府)
4.大阪市マンション耐震化緊急支援事業等について(大阪市)
日時 6月13日(木) 14:00～16:00
会場 大阪市立住まい情報センター
大阪市北区天神橋6-4-20
参加費 無料
定員 150名
申込締切日 6月12日(水) 18:00まで
申込フォーム
http://osaka-sumai-refo.com
問合 大阪府住宅まちづくり部居住企画課
Tel.06-6941-0351(内3032)

## Administration

## Others

## その他のお知らせ

### 第26回「住宅メンテナンス診断士講習会」[住宅点検メンテナンス講習と資格認定試験](大阪会場)

全国の「住宅メンテナンス診断士」が住まいのアフターメンテナンスのアドバイザーとして活躍中です。住まいの不具合の原因やアドバイスのポイントなど、幅広い情報を学ぶ講習会です。

主催 NPO法人 住宅長期保証支援センター
日時 6月19日(水) 9:25～18:00(予定)
(受付9:00～)
会場 大阪府社会福祉会館5階 ホール
大阪市中央区谷町7-4-15
定員 100名(先着順受付、定員になり次第締切)
参加費 一般28,350円(税込)
締切 6月12日(水)
問合 NPO法人住宅長期保証支援センター
Tel.06-6941-8336

http://www.hws.or.jp

### グリーンモデルフェア2013

TOTO、DAIKEN、YKKAPの3社と8社の出展協賛企業による3年ぶりの展示会です。今回は住宅のみならず、パブリック商品も多数展示しております。
また、CPD認定の高齢者施設トイレセミナー(6/21 14時と16時の2回 事前予約制定員30名)も実施します。
日時 6月21日(金)、22日(土)
10:00～17:00(6/22は9:30より)
会場 インテックス大阪1・2号館
問合・申込 TOTO(井本)
Tel.06-6253-5661

http://re-model.jp/green-remodel/fair/index.htm/

### 自立循環型住宅設計講習会 温暖地版(入門編)・準寒冷地版(既受講者向け)[大阪開催]

温暖地版(入門編)は、住宅における生活時のエネルギー消費を50%削減することを目指した講習会です。
主催 (一財)建築環境・省エネルギー機構
日時 6月26日(水)
温暖地(入門編)9:30～13:30
準寒冷地(既受講者向け)14:30～18:30

会場 大阪国際会議場 801-802会議室
大阪市北区中之島5-3-51
講師 自立循環型住宅開発委員会第3フェーズの研究に係わった、国・公共の研究機関・大学の先生の有識者など。
受講料 温暖地7,000円 準寒冷地10,000円
温暖地+準寒冷地を同日に両方受講の場合15,000円(すべてテキスト代含)
定員 各70名(申込先着順、定員なり次第締切)
問合・申込 (一財)建築環境・省エネルギー機構
Tel.03-3222-6946

受講料 温暖地7,000円 準寒冷地10,000円
温暖地+準寒冷地を同日に両方受講の場合15,000円(すべてテキスト代含)
定員 各70名(申込先着順、定員なり次第締切)
問合・申込 (一財)建築環境・省エネルギー機構
Tel.03-3222-6946

### 木造トラス勉強会

木造トラス研究所では「伝統構法」と「木造トラス」の勉強会を開催しています。
主催 木造トラス研究所(株合掌)
日時 6月28日(金) 18:30～21:00
会場 京宝ビル3階「大阪サロン」
大阪市中央区東心斎橋1-3-11
参加費 1,500円/回(木造トラス研究会会員は1,200円/回)
定員 15名(先着順)
申込・問合 (株合掌 原田量治)
Tel・Fax.0742-36-2929
E-mail truss@hera.eonet.ne.jp
http://www.eonet.ne.jp/~truss/NewFiles/study.html

### 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・耐震改修設計指針講習会(大阪開催)

既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・耐震改修設計指針講習会を開催します。
主催 (一財)日本建築防災協会
日時 7月25日(木)～26日(金)

第1日目 7/25:10:20～16:00
第2日目 7/26:10:00～16:00
(16:00～受講修了証交付)

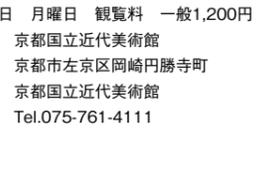
会場 大阪国際交流センター
大阪市天王寺区上本町8-2-6
定員 250名
受講料 21,000円(税込)
テキスト 「2001年改訂版既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・耐震改修設計指針-同解説」
テキスト代 14,000円
申込・問合 (一財)日本建築防災協会
Tel.03-5512-6451
http://www.kenchiku-bosai.or.jp/workshop/index.html

### 大阪市立美術館 特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」

本展覧会は、東洋美術の殿堂と称されるアメリカのボストン美術館より日本美術の粋を集めたものです。
会期 開催中～6月16日(日)
開催時間 9:30～17:00
(入館は16:30まで)
休館日 月曜日
観覧料 一般1,500円
会場 大阪市立美術館(天王寺公園内)
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
問合 大阪市総合コールセンター
なにわコール(年中無休8時～22時)
Tel.06-4301-7285
http://www.boston-nippon.jp/

### 京都国立近代美術館 「芝川照吉コレクション展」

本展覧会では、後には手放された岸田劉生の「道路と土手と堀(切通之写生)」(重要文化財)や青木繁の「享楽」など「芝川コレクション」の核となっていた貴重な作品も加えて、約200点でその全貌に迫ります。
会期 開催中～6月30日(日)
時間 9:30～17:00
(金曜20時まで。入館は閉館30分前まで)
休館日 月曜日 観覧料 一般1,200円
会場 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町
問合 京都国立近代美術館
Tel.075-761-4111



青木繁《女の顔》1904年

京都国立近代美術館蔵

# 広がってゆく、スマートハウス。 そこに、大阪ガスの「ダブル発電」。

家庭用燃料電池「エネファーム」と太陽光発電を組み合わせた「ダブル発電」。

昼も夜も雨の日も、24時間、365日発電でき、自宅で使う電気の

約80%\*をまかなえる「ダブル発電」が、

家を、暮らしを、どんどんスマートにしてゆきます。



ガスで発電

太陽光で発電

## ガスで実現するスマートハウス が、スマート!

\*大阪ガス調べ

お問い合わせ先：大阪ガス株式会社 リビング事業部 大阪リビング営業部 都市開発チーム 〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37

TEL：06-6586-3241 FAX：06-6586-3259 ホームページ：http://www.osakagas.co.jp

### 理事会報告

- 平成25年度役員名簿 ※は常任理事
- 会長 長岡本森廣 全日本コンサルタント(株)技術部長
  - 副会長 上田茂久 ㈱上田茂久建築設計工房代表取締役
  - 西 邦弘 ㈱キンキ総合設計代表取締役
  - 中伊佐男 (財)大阪建築防災センター理事
  - 濱田 徹 鹿島建設(㈱)西支店専任(建築設計)主任
  - 田中義久 ㈱田中都市建築事務所代表取締役
  - 委員長 岡崎 雅 アーキプランシフト代表
  - 伊藤 治正 (財)大阪建築防災センター理事
  - 原田 忍 大阪市立大学大学院教授
  - 山地康夫 ㈱能勢建築構造研究所代表取締役社長
  - 横田友行 ㈱東通建築事務所代表取締役 大阪事務所副社長
  - 米井 寛 ㈱東通建築事務所代表取締役 大阪事務所副社長
  - 飯田英二 ㈱I.M.O.デザイン代表取締役
  - 石貫方子 ㈱エムエフエストラクチャー(株)執行役員
  - 今井俊夫 新環境建築事務所
  - 大附一彦 新環境建築事務所
  - 萩窪伸彦 ㈱安井建築設計事務所(株)メンテンス部長
  - 尾鍋裕実 尾鍋建築設計事務所代表
  - 北野幹夫 大阪市都市整備局住宅部保全整備課長
  - 小谷美樹 積水ハウス(株)大阪南支店設計課長
  - 七堂元敏 堺市建設都市局開発調整部副理事
  - 篠原祥郎 高槻市都市創造部審査指導課課長
  - 神保 勲 ㈱神保塗装代表取締役
  - 杉本哲雄 独立行政法人都市再生機構
  - 杉山英俊 レイ建築設計代表
  - 曾我部千鶴美 With Building 一級建築士事務所代表
  - 竹原麻衣 M Design House 主宰
  - 田中克之 設計TANKA 所長
  - 筑波幸一郎 筑波建築設計工房代表
  - 辻井光憲 大和ハウス工業(株)建築設計部課長
  - 津村泰夫 一級建築士事務所住環境設計代表
  - 徳岡浩二 ㈱徳岡設計代表取締役社長
  - 栃尾邦彦 ㈱尾建築事務所
  - 中島 薫 ナカシマ建設(株)代表取締役
  - 羽木みどり アークスタジオ 一級建築士事務所
  - 萬川幹夫 萬川建築設計事務所
  - 水谷 敢 (株)M&B 一級建築士事務所代表取締役
  - 宮地雄一郎 ㈱安井建築設計事務所企画部企画主任
  - 森田茂夫 社会的な安全安心研究所主宰
  - 山口良 勝 ㈱山口工務店代表取締役
  - 山城健児 コナ工務店(株)代表取締役
  - 山本尚子 山本尚設計工房
  - 横関正人 (株)ネオシオ代表取締役
  - 事務理事 杉原 繁 (公社)大阪府建築士会専務理事
  - 監事 小嶋和平 サンヨーホーム(株)常勤顧問
  - 稲葉繁夫 ㈱繁建築構造設計事務所代表取締役

### 建築相談

建築士の見たトラブル事例(十)  
築三〇年超住宅のリフォーム相談

編・構成 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の上田猛様に話題提供をしていただきました。今月の「建築相談」コーナーは、相談員の上田猛様に話題提供をしていただきました。

間仕切り壁の変更や水回りのリフォームを行った依頼者から「新設キッチンセットと床に隙間があること、浴室の壁にもたれ」とギンギン音がすること、浴室や洗面拡張の際に既設柱を撤去したが、構造は大丈夫なのか心配」という相談がありました。リフォーム工事の内容は以下の通りです。

- 既設浴室、洗面、便所とLDK間の壁を撤去(一部基礎立上りも撤去)
- 約二〇cm LDK側に新たな壁を設置して、浴室、洗面、便所を広げる。
- 浴室、洗面、便所の面積拡張と同時に浴室にはユニットバスを導入し、洗面には新設の洗面化粧台を新設、便所の洋便器も新設に取り替え。
- その他LDKの内装仕上げ(床、壁)更新、洗濯機置き場増設、キッチンセット更新等。

その後、相談者からの依頼で上田さんが、床下収納からの床下調査とユニットバス天井点検口からの天井裏目視調査を行いました。調査結果は以下の通りでした。

- 一 新設浴室(ユニットバス)と新設壁下部には基礎も土台もなく、既設

LDKの床と天井に木製下地を渡して、室内側に石膏ボードを張っているのみ。

二 既設壁撤去に伴い、基礎立上り及び土台を撤去している為、LDK床の既設大引きが切断された、床束のみで支持されている。

三 浴室、洗面間の新設壁の下地材は二階床梁まで届いておらず、途中で止まっている。

四 既設柱は一部切断されており、梁材の補強などはなされていない。



床下の切断されたままの大引

横架材まで達していない壁下地材

先月号の建築相談でも昨年度の建築相談件数の集計を報告したとおり、近年リフォームに関する相談が増えています。これは、大阪府建築士会の行っている建築相談に限った傾向ではなく、どの相談機関もリフォーム相談は増えているようです。リフォームは新築工事と異なり、法的な制限も少なく建築士などの専門家が介在しない工事も多くあります。訪問販売的な手法で契約されることも少なくなく、知らず知らずのうちに大きなダメージを受けることもあります。リフォームであっても建築士が関与する工事が必要であることを痛感します。

### 大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野高尚

西日本における交通の要衝である大阪駅。その南方に位置するビル群が大阪駅前ビル(第一~第四)だ。

戦後、木造建物が密集していたこの地区を、大阪の表玄関口として相応しいように、大阪駅前再開発事業として計画され、四棟建てられた。設計は大阪市都市開発局によるものだが、共同設計者として東畑建築事務所等も名を連ねている。

第一ビルの竣工が昭和四五年(一九七〇年)。その後、時代の流れに乗り開発が進み、最後の第四ビルが昭和五六年(一九八一年)にようやく完成した。足掛け二年にも及ぶビックプロジェクトであった。

現在は空き店舗も目立ち、閑散としているブロッコも存在する。しかし、戦後の活気ある闇市を思い起すような、安くて旨い食事処は未だ健在で、お世話になった人も多いのではないかと。

梅田ではグランフロントが開業。人々の興味は大阪駅より北側に、流れが加速している。今後のこの地区のあり方と、大阪駅前ビル群の行く末を案じている。

### 建築人 6 2013

- 監修 公益社団法人大阪府建築士会  
建築情報委員会
- 編集 建築情報委員会『建築人』編集部
- 編集人代表 米井 寛  
編集人 荒木公樹 飯田英二  
筑波幸一郎 中江 哲  
橋本頼幸 牧野高尚  
山本茂樹 母倉政美
- 事務局 山本茂樹  
印刷 中和印刷紙器株式会社



## 大阪駅シティ

大阪駅北側に広がる梅田北ヤード「うめきた」の開発に先駆けて、大阪駅を将来にわたって大阪の玄関口にふさわしい駅にすべく、下記の4つの基本方針に基づき整備を行った。

1. 広場・通路の整備:線路上空に南北連絡通路を設置し、駅の南と北を繋ぎ南北動線を充実させる。東西方向の動線も整備し、駅周辺地区全体の回遊性の向上を図る。さらにさまざまな趣向を凝らした8つの広場を設置し、賑わいや憩いの空間を提供する。
2. 駅改良:南北連絡通路に新たな改札口「連絡橋口」を含む橋上駅舎を併設して乗換えを便利にし、高架下においても改札内コンコースの拡幅などを行い混雑緩和を図る。また、エレベータ、エスカレータを増設し、バリアフリー設備の充実を行う。そして線路上空には、約180m×100mの大屋根を設置する。
3. ノースゲートビルディングの新設:駅北側に地上28階、地下3階、延床面積約210,000㎡のビルを新設し、百貨店、専門店、レストラン、シネコン、サービス、オフィスなどの機能を集結させる。さらに中央に「うめきた」の玄関口となるアトリウム広場を配する。
4. 駅南側広場の再整備とアクティ大阪の増築:駅南側の広場を歩行者目線で再整備し、この広場を立体的に利用してアクティ大阪の増築を行い、大阪駅の南側の新しい顔として整備する。

第32回大阪都市景観建築賞入賞作品

### ■建物データ

#### 【大阪駅改良】

設計: 西日本旅客鉄道・ジェイアール西日本コンサルタンツ

施工: 大阪駅改良他工事特定建設工事共同企業体

#### 【ノースゲートビルディング】

設計: 西日本旅客鉄道・ジェイアール西日本コンサルタンツ

施工: 大阪駅新北ビル(仮称)新築工事特定建設工事共同企業体

#### 【サウスゲートビルディング】

設計: 安井・ジェイアール西日本コンサルタンツ設計共同体

施工: アクティ大阪増築工事特定建設工事共同企業体

所在地: 大阪市北区梅田3丁目1番1号

用途: 駅、物販店舗、飲食店舗、映画館、事務所、ホテル

構造規模: S造・SRC造・RC造

